

平成22年5月20日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19520039
研究課題名（和文） インド・チベット仏教の「心の宗教」としての伝統とその現代的意義に関する研究
研究課題名（英文） A Study of the tradition of Indo-Tibetan Buddhism as ‘Religion of Mind’ and its value in the Modern World
研究代表者
吉村 均（YOSHIMURA HITOSHI）
財団法人東方研究会・研究員

研究分野：日本倫理思想史、仏教学
科研費の分科・細目：哲学・ 哲学・倫理学（2801）
キーワード：ラムリム・ロジョン・アティーシャ・ナーガールジュナ・神仏関係・仏教学・倫理思想史・宗教学

1. 研究計画の概要

欧米で関心を集めているチベット仏教の「心の宗教」としての性格について、その学習と実践の中心となっているラムリム（菩提道次第）とロジョン（心の訓練法）について、インド仏教に遡ってその性格を明らかにし、その現代的意義を論じ、それを踏まえて日本仏教を再評価する。

2. 研究の進捗状況

チベットの伝統では、仏教を三種類の人々への対機説法として整理し、学習実践するが（ラムリム＝菩提道次第）、これはインドのナーガールジュナ（龍樹）の仏教理解に由来する。ナーガールジュナは大乗経典と六波羅蜜の実践について、釈尊が施戒生天・輪廻からの出離・四諦八正道の順に教えを説いたという次第説法と重ね合わせ、布施・持戒・忍辱を生天の教え、次に輪廻からの出離が目指され、その上で四諦（苦集滅道）の実践的瞑想法としての十二因縁の順観と逆観によって得られた有無を超えた空の境地に留まることこそが、仏教固有の瞑想法である止観（禅定・智慧）であると位置づけた（『勸誡王頌』）。そして空の瞑想が仏陀の法身の因、一切衆生に対し菩提心をおこして福德を積み、廻向することが仏陀の色身の因であるとして、無上正等覚者である仏陀となる因は有限なものではありえず、概念を超えた空を理解する智慧と無数の衆生のための福德こそが仏陀の因となるもので、（阿含経典にも断片的には説かれているが）それを主題的に説いている大乗経典は仏説と考えなければなら

ないと結論づけた（『宝行王正論』）。

チベットに秘伝として伝えられ、今日広く実践されているロジョン（心の訓練法）は、無我の瞑想と呼吸を用いた自己の幸せと他者の苦しみの交換（トンレン）の瞑想を核とするが、これは上記の智慧と福德の実践のエッセンスである。

このような伝統を踏まえて日本仏教を見ると、基本的な仏教理解は共通すること、親鸞や道元の教えは最も高度な段階に一気に辿りつこうとする頓悟的なものであること、そのようなあり方を支えるものとして神信仰が機能していたことが見えてくる。現在の日本の一般的な仏教理解は西洋の仏教学に基づいているが、このように捉えることで、本来の実践性を取り戻すことが可能になる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

ラムリム（菩提道次第）とロジョン（心の訓練法）の基本的性格については、ナーガールジュナの教えに遡って検討することで、明らかにすることができたと考え（論文「ナーガールジュナ（龍樹）の実践的仏教理解・試論」および『神と仏の倫理思想』第二章1）。また、それを踏まえた日本仏教理解は『神と仏の倫理思想』としてまとめ、刊行した。

4. 今後の研究の推進方策

現代のチベット仏教の教えに接することを通じて、仏教の現代社会における意義について考察をさらにすすめ、現代社会における仏教の可能性を探っていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 吉村均, ナーガールジュナ(龍樹)の実践的仏教理解・試論—チベットに伝えられた伝統から—, 明治学院大学教養教育センター紀要『カルチュラル』, 4-1, 2010, 137~149, 有
- ② 吉村均, 福岡県仏教連合会のダライ・ラマ法王講演 第24 世界世界仏教徒会議日本大会—仏教界の現代社会への取り組み—, チベット文化研究会報, 33-2, 2009, 6~9, 無
- ③ 吉村均, 老いの苦と仏教—東洋の伝統から—, 倫理学年報, 57, 2008, 19~34, 無

[学会発表] (計1件)

吉村均, 老いの苦と仏教—東洋の伝統から—, 日本倫理学会, 2007年10月14日, 新潟大学

[図書] (計1件)

吉村均, 北樹出版, 神と仏の倫理思想—日本仏教を読み直す—, 2009, 248